

日本のスキンケアの課題

-日本のスキンケアは、何をもってスキンケアの繁栄に貢献できるか-

スキンケアは欧米諸国からの技術の輸入であり、日本の保湿ケアはあくまで応用技術を中心としたものである以上、スキンケア本来の目的に基づき、肌の健康、肌トラブル、美容を同時に解消するための効果的なアプローチを実現する日本独自のスキンケア技術の開発に努めるべきではないでしょうか。

●保湿ケアの目的と立ち位置

1. 肌の健康:

保湿スキンケアの目的が肌の健康維持にあるかどうかは議論の余地があります。保湿ケアが表面的な対策にとどまり、根本的な肌トラブルの解消を目指していない場合、健康の維持という観点からは限界があると言えます。

2. トラブルの解消:

保湿ケアが肌トラブルの解消に直結するかどうかは疑問です。水分を補給することで一時的に潤いを与えることはできますが、根本的なトラブルの原因である皮膚バリアの修復、バリア機能の改善による角質水分保持力の向上がなければ、ターンオーバーの正常化もなく、トラブルは繰り返されることとなります。

3. 美容:

保湿スキンケアが美容目的であることは確かですが、メイク化粧品には及ばない部分があるため、その立ち位置は微妙です。美容目的であっても、保湿だけでは満足できない場合があります。

●現代の保湿スキンケアの展望

現代では、単に「保湿」するだけでなく、皮膚バリアを強化し、根本的な乾燥対策を講じることが求められています。これにより、肌トラブルの根本原因に対処し、健康で美しい肌を維持することが可能となります。

企業は即効性のある製品を大量に売り出し、消費者はその広告に影響され、短期的な効果を求めています。しかし、本当のスキンケアは肌のバリア機能を修復・強化し、角質の水分保持力を向上させることが重要です。これにより、肌の健康、肌トラブル、美容を同時に解消することができます。簡潔に言うと、スキンケアの目的は表面的な保湿ケアではなく、根本的な皮膚バリアケアということです。

この重要なポイントを認識することで、日本の保湿ケアの方向性を『肌の健康、肌トラブル、美容の同時解消』にシフトしていかなければなりません。それができるのが、リノール酸含有の合成界面活性剤不使用のエマルジョン化粧品を使った皮膚バリアケアです。